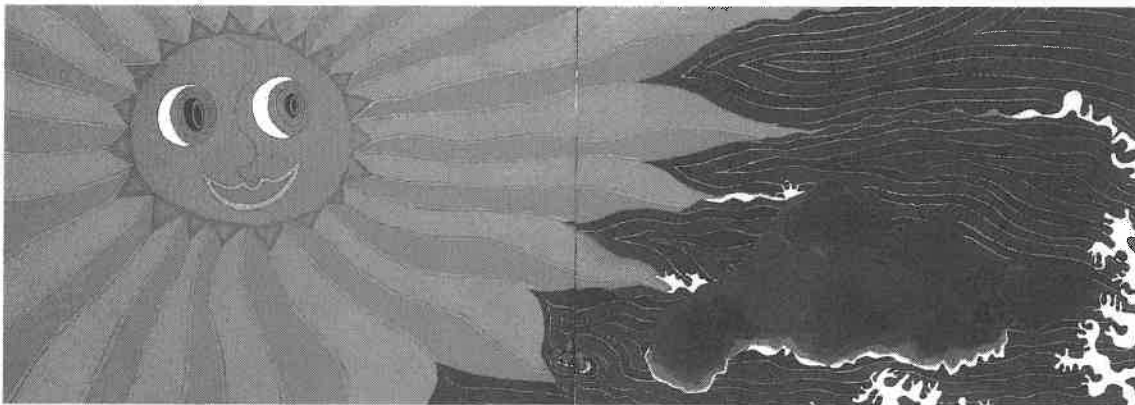


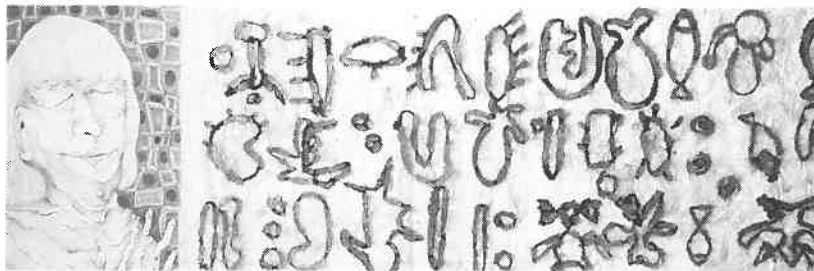


第 13 号
 編集発行／碧南市
 哲学たいけん村
 無我苑
 所在地／碧南市坂口町 3-100
 〒447-0087 : TEL. 0566-41-8522
 : FAX. 0566-41-7761

「不思議なロンゴ・ロンゴ」より



「大きな石のモアイ」より

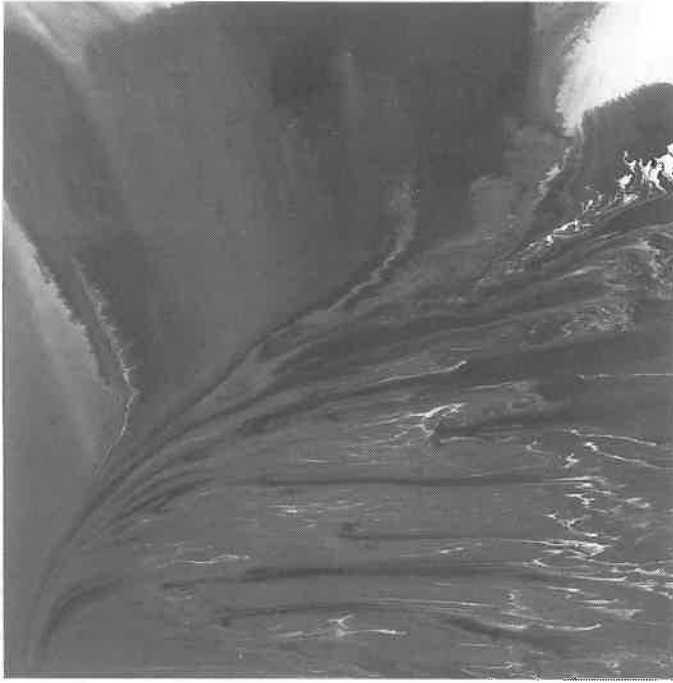


「むかしむかし、ポリネシアというところ」にあった「荒なみにかこまれた小さな島」は、はたして私たちと全く無縁な絶海の孤島だったのであろうか。少なくとも、この孤島が西欧文明の影響を受ける以前の人々の暮らしに、私たちの古い祖先の生活ぶりを重ねてみるくらいの想像力の余地は残しておきたい。
 (久野昭氏『祖先の肖像』より)

ぼくは小学生前に池で溺れたために、水には恐ろしい想像しかでてこない。川海、ましてや太平洋の大海原など見るだけで今でもゾッとする。恐怖の恐怖のそのまた向こうにある絶海の孤島にその恐怖が興味を倍加したのである。島には鳥人間伝説や、モアイや、悲しい歴史があるのだが、中でもぼくを最も引きつけたのは、今だ解読されていない、ロンゴロンゴとよばれる文字であった。
 (木村昭平氏
 『テ・ピト・オ・テ・ヘアヌ』より)



テ・ピト・オ・テ・ヘアヌ (地球のへそ) …………… 木村昭平の世界



130.3×130.3 1999年

いろに眩やく

いろを
 だんだん
 重ねていくと
 かたちが
 あとから
 蹤いてくる

そして
 いちばんあとに——
 ほんとに
 置きたかったいろを
 置けば
 それで終り——

大きな白い
 キャンヴァスの前に立つと
 自然に手が動きはじめ
 色が重なり

形のようなものが
 あらわれてきます
 ふと、この絵は
 私の絵なのだろうか
 これは本当に
 私自身なのだろうか——
 そんな想いも塗り込めながら
 終点のない世界のなかで
 いつも私は揺らいでいます

第十三回 瞑想回廊企画展示

テーマ 「色が語りはじめる」
 ～安藤玉子作品展～

期間 平成十二年一月十八日(火)～
 三月二十日(日)

〈受講者の感想〉

◎毎回、香り高い時間をありがたうございました。素敵な知識への「窓」をたくさん見せて頂いた思いです。その中でいくつか自分なりにより深く知る喜びを味わってみたいと思います。

また機会があったら、もっと吸収できるように自分の器を拡げておきたいと思えます。

◎五感を通して豊かな文明を感じ、感動がある。知の満足を講座の中でまとめてください先生に感謝いたします。

◎五回共に内容がよかった。参考文献も毎回紹介して頂きとても参考になった。是非全部読んでみたい。

◎知覚について講義を聴く中で、自分のこと、子供のこと、人間全体のことなど改めて見つめ直すことができました。

平成11年度 はじめての哲学講座

テーマ「哲学として考える、感覚の文化」	
講師 中京女子大学講師 加藤 博子 氏	
1月22日(土)	うごき — 人形劇 —
2月12日(土)	おと — ピアノ —
3月11日(土)	かおり — 記憶像 —
3月18日(土)	いろ — 塗と染 —
3月25日(土)	あじ — お茶会 —

テーマ 「水の思想」

1	6月 2日(金)	洪水神話
2	6月 9日(金)	深淵と不安
3	6月16日(金)	原初の水と生命の水

講師 久野 昭 氏

〔広島大学名誉教授
 国際日本文化研究センター名誉教授〕

平成十二年度 前期哲学講座の記録

今回、はじめて金曜日に講座を開催しましたところ、平日にもかかわらず、二十六名の方が受講されました。昨年の「火の思想」につづけて受講された方も多く、会場は静かな熱気と緊張感に溢れていました。





去る一月二十三日(日)、碧南市芸術文化ホールで、哲学たいけん村名誉村長の梅原猛氏と碧南市芸術文化村名誉村長の齋藤茂太氏の新春放談が開催されました。この対談は哲学たいけん村顧問の久野昭氏が企画され、コーディネーターをつとめられたもので、「旅・酒・文化」をテーマにした両村長の夢とロマンとユーモアあふれるトークは、市内・市外から訪れた六百人の観客を魅了しました。

哲学たいけん村名誉村長 「新春放談」
 芸術文化村名誉村長 梅原猛先生文化勲章受章祝賀会
 開かれる

この時の対談記録集「新春放談 旅・酒・文化」は、市民図書館(本館、中部・南部分館)、芸術文化ホール、哲学たいけん村無我苑にて一部二百円で販売しています。

新春放談終了後、昨年十一月に、哲学たいけん村名誉村長の梅原猛氏が栄えある文化勲章を受賞されたことをお祝いするため、市内のホテルで祝賀会が開催されました。碧南市民や哲学たいけん村の村民の方々等、約二百五十人が出席し、和やかな雰囲気のもとに梅原猛先生の受賞をお祝いしました。



平成11年度 実施事業の報告

うぐいすの声を聴く会	4月18日(日)	銘鶯保存会の協力により、研修道場で鶯の鳴き声を楽しむ	入場者 300名
はじめての座禅	8月29日(日)	講師を招いて、座禅を通じて精神統一を図ることの講義 講師 林泉寺住職 丹羽 康道 氏	受講者 31名
お茶のいただき方教室	9月～10月 全6回	初心者対象の茶道教室 講師 文協茶道部 安形 亮照 氏	受講者 11名
村民野外研修	11月7日(日)	村民の哲学体験のための野外研修 養老天命反転地(養老町) 日本国際ポスター美術館(大垣市)	参加者 35名
茶の湯文化講座	11月11日(土)	演題「茶の湯の数奇」 講師 野村美術館学芸課長 谷 晃	受講者 34名
エンカウンター・グループ	2月18～20日 2泊3日	集団の中で心と心の出会いを模索 講師 愛知大学教授 木村 易 氏	参加者 9名

フォト H.12. 2. 9



秋篠宮殿下・妃殿下ご来苑

来村者の声(アンケートより)

◎何度御邪魔しても、何となく、新しい物、事に出会えます。感謝です。

(市外 男性)

◎高校生であった時、梅原猛先生の講演を母校で聴きました。西洋の砂漠の思想と東洋の農耕民の思想との対比が、わずかに記憶されています。日本の本来の思想を西洋に頼らず、建設することが、今本当に求められていると感じています。

(市外 医師)

◎ゆったりとした場で、心が落ち着く。ハイビジョンの画像は、構成もすばらしく見応えがある。椅子があちこちでその場にふさわしくて、よかった。

(市外 公務員)

◎以前、来たことがありましたが、当時興味のないことも、今は、とても関心をもってみることが出来ます。大きな施設よりも、自分の身近で、小さな施設にも素晴らしいことが発見できるような気がします。

(市内 学生)

◎ゆったりとした気分でリラックスできる空間が用意されているし、何かいろいろと深く考えさせられる言葉のなげかけもあって、すごく気に入りました。

(安城市 公務員)

◎すべてが落ち着ける雰囲気でした。懐かしい展示物でした。椅子の座りよさに驚きます。

(知多市 施設指導員)

涛々庵茶会

お茶を一服楽しみませんか

哲学たいけん村無我苑では、毎月第四日曜日(十二月のみ第三)に市民茶会を開催しております。どなたでも、お気軽にご参加ください。

◇呈茶料 一服 四百円

「涛々庵茶会」席主表 (平成12年 9 月～平成13年 8 月)

月日	氏名(茶名)	流派	月日	氏名(茶名)	流派
9. 24	杉浦 伸子(宗伸)	裏千家	3. 25	小沢わさ子(宗和)	松尾流
10. 22	瀬田みな子(宗美)	表千家	4. 22	磯貝 勝代(宗代)	裏千家
11. 26	安形 亮照(宗照)	裏千家	5. 27	文化協会茶道部	
12. 17	高山 恵子(宗恵)	表千家	6. 24	小笠原芙美(宗文)	久田流
1. 28	山崎 瑞枝(宗瑞)	裏千家	7. 23	山田 昇(宗昇)	裏千家
2. 25	小島 和美(宗美)	裏千家	8. 27	杉浦 とめ(宗登)	久田流

お知らせ

◆お茶のいただき方教室(全六回)

とき 平成十二年十月十七日(火)より
ところ 哲学たいけん村無我苑
研修道場及び市民茶室

講師 安形 亮照 氏

※詳細は広報へきなんに掲載します。又村民の方にはメールでお知らせします。
☆今夏、涛々庵入り口付近の通路に、雪見石灯籠が設置されました。これは、市内在住の榎原純治郎氏のご寄付されたものです。灯籠の上のカエルが、皆様の御来苑をお待ちしています。



☆ヘイケボタルの飼育

八月八日より瞑想回廊事務室でヘイケボタルの幼虫五十匹の飼育をしています。エサは、モノアラガイをつぶしてやりませう。過去には夏の風物詩として、ホタルは人間の身近に生息していましたが、今では珍しい生物となつてしまいました。今夏、無我苑付近でその姿がみられるかもしれません。